

老いても安心して暮らせるまち榎本。目指すのは『ふるさと榎本』の実現。

お一人ひとりの暮らしの中で大事なものはなんだろうとこれからも一緒に探し求めていきます

みつるぎだより



Happy Birthday ♥

「ただの日常」の笑顔が愛おしくて…

みつるぎな日々!
今日もいい日だ「喜笑愛楽」

発行：小規模多機能型居宅介護『みつるぎの里』
大阪市鶴見区今津中 1-9-32 (榎本福祉会館 2階)
TEL:06-6955-9044
<https://www.egao-ageruyo.com/>
NPO 法人榎本地域活動協議会



ふれあい喫茶でお喋り

地域で暮らすということ

通い慣れた商店街、馴染みの店でお買い物。音楽を聞いたり、仲良しさんとおしゃべりしたり…「いつもの暮らしの継続」を楽しんで。



「お菓子のみすた」@みゆき通り



思い思いのスタイルで



第80回記念 はなてん音楽サロン



多彩なみつるぎの里スタッフをインタビューを元に順に紹介!②

母が介護の現場でイキイキと働く姿に惹かれ「みつるぎの里」へ。現在はメディア情報を専攻する大学生。卒業後は台湾の大学院で専門性を深める「表現者の卵」。

◆ 正田 綾です ◆

「みつるぎの自慢は、ご利用者の『やりたい』を叶えるため、スタッフ全員があれやこれやと一生懸命に知恵を絞る風土」だと即答。母の醸し出す仕事の楽しさの正体は、この「誰かのために本気になる温かさ」だったのだと、現場に入り肌で感じる事ができた。映像表現を学ぶ彼女だからこそ、大切にしたい視点がある。それは、一見すると手持ち無沙汰に過ぎてしまう「空白の時間」に彩りを添えること。「静かな時間も大切ですが、そこを自分なりの工夫で、心待ちにしていけるような豊かなひとときへ変えていきたい」と語る。夢は、ご利用者の生活にフォーカスしたドキュメンタリー映像を作ること。「スタッフやご利用者という垣根を越えて沁み渡る『相手を思いやる心』を、いつか形にしたい」という目標は、現場での丁寧な言葉掛けや、一人ひとりへの深い敬意に繋がっている。

母が愛するこの場所で、クリエイターとしての瑞々しいまざしを活かしながら、ご利用者の日常を鮮やかに写し出そうとする彼女。親子二代で紡ぐ新しい物語が、みつるぎの里に温かな風を吹き込んでいます。



ほんま かあらしいなあ!!上手じょうず!

天使の歌声交流会

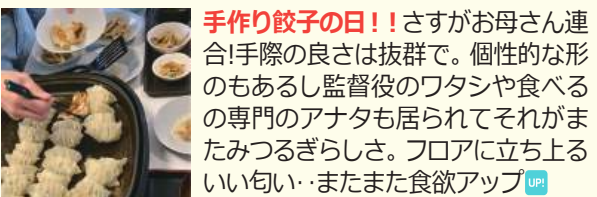
厳冬の影響で、延期になっていた交流会。笑顔の向こうに可愛い天使の姿が浮かぶよう。皆で準備したお土産をお話ししながら手渡しました。それにも悔しいほどの笑顔!! 天使には敵いません。笑顔は観る人に幸せを運びます。公園散歩での出会いから始まった園児との交流。暖かくなるのが待ち遠しいです。



笑ったり・泣いちゃったり…感性豊か



また来てな😊



手作り餃子の日!! さすがお母さん連合! 手際の良さは抜群で。個性的な形のもあるし監督役のワタシや食べるの専門のアナタも居られてそれがまたみつるぎらしさ。フロアに立ち上るいい匂い…またまた食欲アップ UP!



個性際立つ餃子作り! 「あんたそこはそないするん?」

なぜ、ここ榎本にみつぎの里が必要なのか

管理者・彌重卓志がひもとく！
みつぎの里・その使命 Vol.15



向かって左が私です笑

『居合わせる』

鶴見区の研修で佐藤泰子先生が語られた『妖怪人間ベム』の話は、私にとって大きな希望に。人は言葉を持ったことで「なぜ生きるのか」と問い、過去を悔い、未来を案じ、意味を探し続ける存在になった。しかし先生は「人は死ぬから生きる」と言われた。もし永遠の命があれば、今日を急ぐ必要もなく、百年遊び、二百年眠ることもできる。有限だからこそ『今』がかけがえのないものになる。永遠の命を持つベムが、それでも人間になりたいと願うのは、限りある時間の中で誰かと出会い、傷つき、喜び、愛し合うという“揺らぎ”の世界に価値を見いだしているからだと思った。

認知症ケアもまた、言葉によって発展してきた。パーソンセンタードケアやバリエーション、ユマニチュードといった実践は、当事者を尊重しようとする重要な歩み。しかしそれらは、あくまで「説明できる世界」の中で組み立てられた理論でもある。見当識が揺らぎ、時間の流れが直線ではなくなる世界に生きる人を、過去・現在・未来という時間軸で理解しようとする自体に、どこか限界があるのではないかと感じて。認知症の人が生きているのは、理由や目的で構成された時間ではなく、『今この瞬間』の感情の世界ではないか。幼子が面白いからと何度も「もう一回」と求めるように、そこには合理的な説明はなく、ただ確かな『今』があるだけ。

私は、認知症ケアの本質は理論を否定することではなく、それを超えたところにあると考えている。導こうとするのでも、正そうとするのでもなく、おとしよりさんとただ『居合わせる』こと。同じ空間に身を置き、同じ空気を吸い、その瞬間を共に生きること。有限で、二度と戻らない今を分かち合うこと。ベムが憧れた人間の世界とは、きっとこの『限りある関係』のことなのだと思う。

私は、その説明しきれない時間を大切に介護をチームのみんなで実践していきたいと思っています。

みつぎ応援団VI
(特非)榎本地域活動協議会幹事
前女性会会長
板倉 佐智子さん

新企画！苦言あり期待あり

みつぎの里の「これから」を一緒に考える

**『おせっかい』
それが私の生きる道！笑**



だれとも仲良くこんな風に喋るのが好きやねん。みつぎは、いつかは職員さんもよお代わってせつかく親しくなったら辞めはって..けど今は皆、お馴染みの顔ぶれが揃って、みんなニコニコしたはって、ほんま安心。悪い噂はすぐ広まる、そんなことばっかりが耳に入ると居たたまれへん。

私は長いこと女性会で、地域とも関わってきて、初めは、なんで地域で介護施設しなあかんの？ってわからん事ばかりやった。正直、この榎本で介護の人に車椅子押してもらってる姿を見られるのはイヤやな、とも思ってた。けどこの10年、いろんな声はね返し、みつぎの皆んな頑張ってきた。偉いなあと心底思う。最近、もうええかなと諦めることも少しずつ増えてきて、これが歳とったってことかと思うけど、彌重(管理者)さんや遠上(ケアマネジャー)さんらと喋ってたら、そんな不安飛んでいくわ。私はいつでも気軽に、知り合いのことでも相談できるけど、榎本の人たち、同じような不安や悩み持ってると思う。そんな声を繋げたらいいなと思うわ。まだまだ声かけてもらえるうちは私も頑張るで。みつぎの予約はしとくけど、20年ぐらい待っててな。

「おせっかい」こそが福祉の原点。それを生来の気質として持つておられる板倉さん。コロナ禍を挟み、地域の重鎮も次々引退。地域活動は変わりつつある。惜しみなく降り注がれたこの恩恵に報いることができるのはまだまだ先のように..笑(彌重)

みつぎ一家のエトセトラ



よっ!三代目!!期待してるよ

係長のつづやき(16)

**渋すぎる休日に感じた「愛おしさ」
介護係長・米山卓**



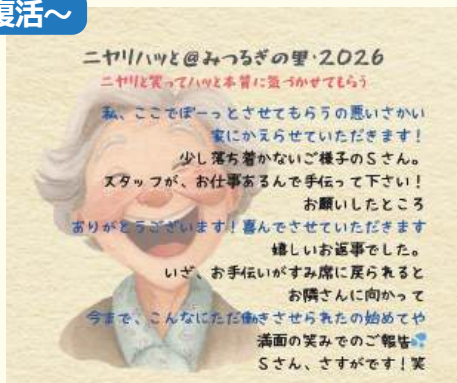
向かって右が僕です笑

大学時代の友人と中年親父の休日を楽しんだ。朝護孫子寺を観光した後、亀の瀬地すべり歴史資料館へ。2時間弱の無料のガイドツアーにも参加し、地すべりによる大和川の決壊を決して派手ではなく、静かに防ぐ人間の知恵を友人と真剣に学んできた。(興味があればお調べ下さい)

さらに友人は私に、誕生日プレゼントとして、手袋まで用意してくれていた。もちろん、友人は女性ではない。中年男性である。ある意味、無駄で地味な一日の、車中での会話の中身は「家族」「仕事」が中心になる。

ただ、そんなひと時がとても愛おしかった。歳を重ねて、あらゆるものに興味を持っている自分と、学生時代の友人が今ここにいることが嬉しかった。みつぎのお年寄りさんのように、僕も老いに向かっていけているような気がして、なんか嬉しかった。

日々の生活の中、ニヤリと笑ってハッと本質に気づかせるのも一つのこと。一杯、フェイスブックで絶賛更新中!



**介護
あるある!**

▶普段や介護の生活から「それ、あるある!!」を公益社団法人全国有料老人ホーム協会の過去のシルバー川柳入賞作品を引用してご紹介します!!

- ポイントは 使っていいぞと 遺言に
- 散骨を 海にはするな 泳げない
- レジに行き 一桁違い 戻す服
- 振り込める 金があるなら 苦労せん
- 次の世も 一緒と言え 妻は NO



小規模多機能型居宅介護

